



2025年 4月25日
第183号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



福知山線脱線事故から20年

事故の背景には安全よりも利益を追求する経営姿勢があった。今のJR東日本は？

2005年4月25日午前9時18分、列車がカーブを曲がり切れずに脱線、線路脇のマンションに衝突し、乗客106名と運転士が死亡、562名が重軽傷を負った「JR福知山線脱線事故」発生から今日で20年が経過しました。この事故では、懲罰的日勤教育が問題視されましたが、安全よりも利益を追求する支社方針や成果型の人事・賃金制度の導入が背景にあったことを忘れてはいけません。



幹本申 14号 「列車分離の原因が特定できていない車両 (E6系 Z7編成)の営業運転使用の中止を求める」
緊急申し入れを提出！！

1. 列車分離の原因が特定できていない車両 (E6系 Z7編成)の営業運転を中止すること。

2025年4月23日に会社は「東北新幹線長野～大宮間はやぶさ・こまち21号が走行中に連結部が外れ停車した事象に関する現在に状況について」のプレスを発表しました。主な内容は「本件に関しては運輸安全委員会の調査も行われておりますが、当該のE6系こまち号に対して運輸安全委員会に申し立てられた安全が解除された」「安全が解除された当該のE6系こまち号は、検査および整備を行ったのち、営業運転に使用する」とのことですが、どのような検査、整備を行うかの説明はありませんでした。

列車分離の原因が特定できていないにも関わらず当該編成を営業運転に使用することは、同種事故を起こすこと、さらには命や安全を脅かすことに繋がりがかねません。現在行われている固定金具を使用した暫定対策はあくまで原因が特定できていない中で緊急的な措置であり、恒久的な対策とは言えません。

昨年9月の列車分離発生後、JR東労組は原因究明と再発防止に向けての対策実施を求める緊急申し入れを行いました。交渉の場で「原因が判明していない中で併合運転継続は問題がある」との私たちの主張に対し会社は「車両等の状況から他編成で同様の事象が発生する可能性は低い」「併合運転継続の判断に問題はなかった」と繰り返しました。この認識が再度の列車分離を発生させてしまったと言わざるを得ません。

2023年12月に新幹線統括本部長名で出された掲示で示された「新幹線を止めない、遅らせない」「利益の最大化に向けて構造改革に取り組むと共に増収・コストダウンを続け、『稼ぐ』ことにこだわる」という言葉に、現在の会社のスタンスが如実に示されています。私たちが再三指摘していますが、原因の特定できていない車両を営業運転に使用することは「現場の声は聞かない」という経営姿勢のあらわれであり、「安全は経営のトッププライオリティ」との位置づけを自ら覆していると言いかいありません。4月21日には突如、各職場に「併合作業時の当面の対策の体制変更」が示されましたが、その事に対しても「なぜ乗務員による体制なのか」などの説明は一切なされていません。

このようなことから、JR東労組では列車分離の原因が特定できていない車両の営業運転使用を中止することを求め、緊急に申し入れを行いました。私たちは、「安全」より「利益・効率」を重視し、「稼ぐ」ことを第一とした結果、何が起るのかを20年前の4月25日に目の当たりにしました。その教訓は鉄道に携わる者として決して忘れてはならないはずですが、責任追及から原因究明、運行優先から安全第一の職場風土づくりを目指して交渉を行っていきます。

私たちは「稼ぐ」ことではなく、「安全・安心」にこだわっていきます！

一方で、JR東日本では2023年12月に新幹線統括本部長名で「新幹線を止めない、遅らせない」「利益の最大化に向けて構造改革に取り組むと共に増収・コストダウンを続け、『稼ぐ』ことにこだわる」との掲示が出されて以降、上野～大宮間での架線垂下による停電事故と復旧作業中の感電事故、郡山駅での滑走による停止限界標識を超えて出発進路を冒進した事象、そして昨年9月と今年3月に新幹線列車分離が半月以内に2回も発生するなど、単なる偶然とは思えない数々の重大な事故・事象が新幹線において相次いで発生しています。

← JR東労組 新幹線協議会ネットワークNo. 61

新幹線列車分離では、未だに原因が特定できていないにもかかわらず、会社は当該E6系車両を検査・整備を行ったのちに営業運転に使用しようとしています。こういってところに、「安全」より「利益・効率」を重視し、「稼ぐ」ことを第一とする経営姿勢が現れており、現場で働く組合員・社員と乗客の『命』が脅かされています。これ以上重大な事故・事象を発生させないためにも、JR東労組新幹線協議会は幹本申第14号「列車分離の原因が特定できていない車両 (E6系 Z7編成)の営業運転使用の中止を求める」緊急申し入れを提出しています。

社員・お客さまの命と鉄道の安全を守るためにJR東労組に結集しよう！